

## 軒高 2 m 程度の施設でも高収量が得られる トマトの年間 4 作袋培地栽培技術

トマトの好適な生育には適正な光量と根圏環境が不可欠であり、一部の農家では高軒高ハウス（軒高約 4 m）で養液栽培を行い高収量を得ています。しかし、これらの施設・装置では導入に高額な経費がかかり、農家にとって大きな負担となります。そこで、福岡県農林業総合試験場では、広く普及している軒高 2 m 程度のハウスでも、導入費が安価な袋培地を導入することにより、高収量が得られる栽培技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 軒高 2 m 程度のハウスに有機質資材を主体とした袋培地（イノチオアグリ製）を、2 列ずつ置き（10a 当たり 1,200 袋）、袋培地の各列にかん水用の点滴チューブを設置します（図 1）。
2. 栽培は 1 列の袋培地を 8～12 月、隣の列を 10～3 月に行い、その後、12 月に栽培が終了した 1 列を 1～5 月、3 月に終了した隣の列を 3～7 月に行います。全ての栽培列は 6 段果房まで収穫します（図 1、2）。
3. 根圏環境が良い袋培地を用い、隣接する 2 列の栽培期間をずらすため、隣り合う株との光競合がほとんどありません。加えて、年間に 4 作栽培できるので、収量は土耕栽培の 2 倍の約 30t/10a が得られます。また、収穫果実の品質は慣行の土耕栽培と同等です。
4. 栽培システムの導入経費は 10a 当たり 3,810 千円で、その他に種苗費、雇用労賃などが慣行の土耕栽培より増えますが、粗収益は慣行の約 2 倍となり、約 1.5 倍（2,063 千円）の所得が見込めます。

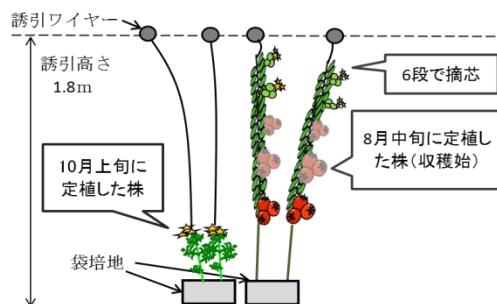


図 1 10月上旬の様子

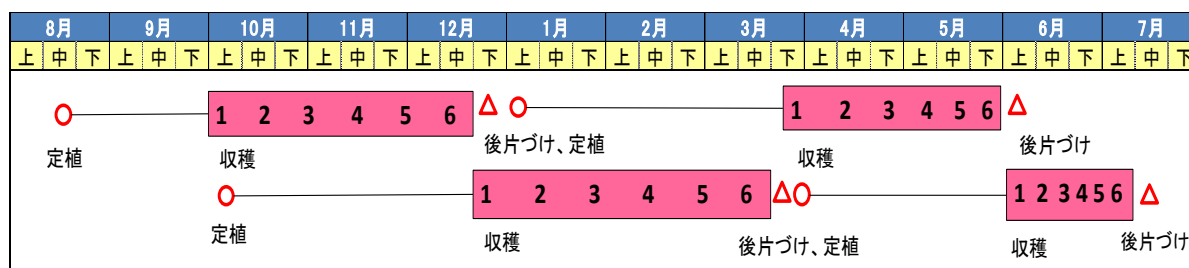


図 2 トマト 4 作栽培の作型

注) 1. 袋培地の袋当たり定植株数は、8月と3月植えが5株、10月と1月植えが4株。定植には紙ポットの6葉苗（ポットサイズ 8 cm × 8 cm × 7 cm）を用いる。 2. □内の数字は収穫中の果房段位。

### ☆ 活用面での留意点

1. 暖房温度は 12℃ とし、袋培地は下に電熱線を敷き、11～3 月まで 21℃ に加温します。
2. 詳しいことは福岡県農林業総合試験場（TEL:092-922-4364）まで、お問い合わせください。  
（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）